

DP (教育目標)

- DP 1 比較文化論、比較ジェンダー論、国際日本学のいずれかの学問領域において、緻密で体系的知識を習得し活用することができる。
- DP 2 文献読解能力、批評能力、課題発見能力、情報収集能力、分析考察能力、論理的文章作成能力、口頭発表能力など、高度な研究能力を用いて自立した研究活動を行うことができる。
- DP 3 専門とする分野から隣接諸学に視野を広げ、研究成果をグローバル社会の発展に活かすことができる。
- DP 4 比較文化の視点に基づく研究実績を持ち、国際社会において日本の学術の発展並びに国際的協働に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	SDGs該当項目
研究指導	比較文化研究指導Ⅰ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	◎	○			
	比較文化研究指導Ⅱ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	◎	○			
	比較文化研究指導Ⅲ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	○	◎			
	比較文化研究指導Ⅳ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。	○	◎			
	比較文化研究指導Ⅴ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。			◎	○	
	比較文化研究指導Ⅵ	2	選択	「比較文化」の視点や考え方を取り入れ、また、研究テーマの領域だけでなくその周辺領域にも視野に入れて、博士論文にふさわしいレベルでの論文作成ができるようになることを目標とする。博士論文には研究のオリジナリティーが示されていることが必要となる。知識の蓄積と研究の独創性をいかに両立させるかを学んでいく。博士論文の計画立案から資料収集とその読解、執筆、完成までの指導を行う。質のよい論文作成のために必要な過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。			○	◎	
	比較ジェンダー論指導Ⅰ	2	選択	比較ジェンダー論専攻の領域の博士論文の指導を行う。テーマの設定、理論、分析の手法、考察など、論文執筆に必要な手法を学び、最終的に論文を完成させることを目標とする。履修者の研究テーマに応じて、先行研究の検討、資料収集（調査を含む）等の指導を行う。履修者には、毎回の授業において、論文の進捗状況の報告が義務付けられる。して、授業前日までに、メール等の連絡手段を通じて、予め研究の進捗状況を書面で報告することを義務付ける。	◎	○			
	比較ジェンダー論指導Ⅱ	2	選択	比較ジェンダー論専攻の領域の博士論文の指導を行う。テーマの設定、理論、分析の手法、考察など、論文執筆に必要な手法を学び、最終的に論文を完成させることを目標とする。履修者の研究テーマに応じて、先行研究の検討、資料収集（調査を含む）等の指導を行う。履修者には、毎回の授業において、論文の進捗状況の報告が義務付けられる。して、授業前日までに、メール等の連絡手段を通じて、予め研究の進捗状況を書面で報告することを義務付ける。	◎	○			
	比較ジェンダー論指導Ⅲ	2	選択	比較ジェンダー論専攻の領域の博士論文の指導を行う。テーマの設定、理論、分析の手法、考察など、論文執筆に必要な手法を学び、最終的に論文を完成させることを目標とする。履修者の研究テーマに応じて、先行研究の検討、資料収集（調査を含む）等の指導を行う。履修者には、毎回の授業において、論文の進捗状況の報告が義務付けられる。して、授業前日までに、メール等の連絡手段を通じて、予め研究の進捗状況を書面で報告することを義務付ける。	○	◎			
	比較ジェンダー論指導Ⅳ	2	選択	比較ジェンダー論専攻の領域の博士論文の指導を行う。テーマの設定、理論、分析の手法、考察など、論文執筆に必要な手法を学び、最終的に論文を完成させることを目標とする。履修者の研究テーマに応じて、先行研究の検討、資料収集（調査を含む）等の指導を行う。履修者には、毎回の授業において、論文の進捗状況の報告が義務付けられる。して、授業前日までに、メール等の連絡手段を通じて、予め研究の進捗状況を書面で報告することを義務付ける。	○	◎			
	比較ジェンダー論指導Ⅴ	2	選択	比較ジェンダー論専攻の領域の博士論文の指導を行う。テーマの設定、理論、分析の手法、考察など、論文執筆に必要な手法を学び、最終的に論文を完成させることを目標とする。履修者の研究テーマに応じて、先行研究の検討、資料収集（調査を含む）等の指導を行う。履修者には、毎回の授業において、論文の進捗状況の報告が義務付けられる。して、授業前日までに、メール等の連絡手段を通じて、予め研究の進捗状況を書面で報告することを義務付ける。			◎	○	
	比較ジェンダー論指導Ⅵ	2	選択	比較ジェンダー論専攻の領域の博士論文の指導を行う。テーマの設定、理論、分析の手法、考察など、論文執筆に必要な手法を学び、最終的に論文を完成させることを目標とする。履修者の研究テーマに応じて、先行研究の検討、資料収集（調査を含む）等の指導を行う。履修者には、毎回の授業において、論文の進捗状況の報告が義務付けられる。して、授業前日までに、メール等の連絡手段を通じて、予め研究の進捗状況を書面で報告することを義務付ける。			○	◎	
	国際日本学研究指導Ⅰ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせて、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。	◎	○			

	国際日本学研究指導Ⅱ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。	◎	○			
	国際日本学研究指導Ⅲ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。	○	◎			
	国際日本学研究指導Ⅳ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。	○	◎			
	国際日本学研究指導Ⅴ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。			◎	○	
	国際日本学研究指導Ⅵ	2	選択	日本の文学や歴史、言語、コミュニケーション、言語教育を専攻する学生の、博士論文作成に関する一連の指導を行う。博士論文にふさわしい独自性を持った論文を完成させるためには、論文テーマの設定と、研究の枠組みと先行研究の検討、資料の収集と分析、考察が必要である。履修者の個々のニーズに合わせてながら、履修者が積極的に取り組んでいけるように助言、指導を行う。			○	◎	
共通 基盤 科目	研究法概説(研究資源探索・論文執筆)	2	選択	各履修者が博士論文の全容、あるべき形をイメージできるようにすることを目標とする。また、論文作成するための知識と技法を再確認し、博士論文の執筆に備えることを目標とする。特に、研究倫理について重視する。そのために、まず、博士論文(dissertation)とは何かということを考える。次に、留学生もいることを視野に入れて、日本の研究機関や関連の研究資源にはどのようなものがあるか紹介する。そして、研究方法、リサーチの仕方、文献の分析・使い方・仕方、引用・注・参考文献の書き方とその考え方を再確認する。最終的に、受講生が今後の研究計画について一通り立てられるようにする。			◎		
	研究法概説(情報学・統計学)	2	選択	博士課程における調査研究を行うための研究調査法を身につける。研究とは、明確な問題意識をもち、設定されている課題を解決するために計画的・系統的に情報・データ・事実を収集し、適切な認識的枠組み(理論・仮説・分析フレームワーク)のもとに分析・解釈し論文にまとめ発表することである。質的研究の方法として、面接法・観察法・質問紙調査法を学ぶ。量的研究の方法として、データの視覚化・探索的データ解析、2群比較(t検定、ウィルコクソンの順位和検定)、多群比較(分散分析、クラスカル・ウォリスの順位和検定)のほか、相関分析、回帰分析、因子分析、共分散構造分析、統計的テキストマイニングを学ぶ。			◎		
研究 特論	日本文学特論A	2	選択	社会のグローバル化のなかで、日本文学研究についても変革の試みの一つとして、外に開こうとする動きがある。日本文学、特に古典文学に対する中国からの直接的間接的影響については、早くから認識され研究もされてきた。こうした伝統的な比較文学研究とは異なり、近年では、地域的枠組みの変化を背景に、西欧に対する東アジア、特に漢字文化圏を視野に、種々の方面から文化的共通点や相違点を探索し、新たな文学史の構築が試みられている。そこで近年発表された論文や研究書からいくつかの話題をとりあげて、東アジアにおける日本文学(主に古典)の現在を知り、各院生の研究や将来の教育の糧となるようにしていきたい。	◎		○		
	日本文学特論B	2	選択	日本文学の論じられるトピックを、現代の研究の潮流を視野に入れながら、専門的に学ぶ。近年発表された論文や研究書、あるいは研究史上重要な文献をもとにトピックを選択し、日本文学に対する知見を深め、各院生の研究や将来の教育に資するものとする。	◎		○		
	日本語学特論A	2	選択	本コースでは縦軸として日本語学の研究分野である「日本語史」から日本語がどのように変化したのかを学ぶ。主に品詞、表現、文体、敬語などの変遷についての研究論文を読み、日本語が過去から現在に至るまでどのような変遷を経てきたかという史的な視点を広げるだけでなく、現在生じている様々な変化を多角的に考える力を養う。横軸としては、日中両言語の相違点や中国人学習者の初級から上級レベルの文法、語彙、(共起)表現、説明・描写の視点などに関する習得上の問題を分析・考察し、そこで得た知見や視点を生かしながら、教育実践の場で役立つ具体的な活動案を案出する力を養成する。	◎		○		
	日本語学特論B	2	選択	日本語研究で重要な文献やテーマ、近年の研究成果等を講読、検討し、履修者の日本語研究の知識を深める。日本語の意味研究では、長年にわたって類義語研究や多義語研究がなされ、近年では、コーパスを用いた研究や認知言語学的な視点からの意味分析も活発である。そこで、この授業では多義動詞の近年の研究成果について検討していくことにする。国立国語研究所の「基本動詞ハンドブック」と、「現代書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)」を参考にし、またその他の先行研究と併せて、近年の多義語分析の方法とその分析事例、類義語の分析事例、日本語教育への応用などを検討し、意味とその分析についての理解を深め、認知言語学的な意味拡張による意味分析を実践する。	◎		○		
	日本語教育学特論A	2	選択	日本語教育研究の特論として、内容重視の言語教育としての「持続可能性言語(日本語)教育」をとりあげ検討する。それを通して、第一に、グローバル化する世界における言語教育の新たな役割についての理解を深め、第二に、教育の現場にどのように導入できるか、その手立てを考える。授業は、文献購読の形式をとる。各章ごとに報告者を決め、その報告をもとに議論を進める。	◎		○		
	日本語教育学特論B	2	選択	日本語教育研究で議論されてきた諸問題を、主要な文献や近年の研究成果を理解するのに適した文献を読むことや、調査の結果得られた資料を分析をすることを通して検討する。履修者は、自分の研究テーマや日本語教育の実践経験をもとに授業で扱われるトピックを考察し、博士論文作成に向けて視野を広げ、あるいは専門性を深めるものとする。	◎		○		
	地域文化特論A	2	選択	東アジア世界全体を視野に入れて、「比較文化」及び「物質文化」という切り口から、資料に即して具体的に考究することを目標とする。そのために必要な幅広く体系的な知識の修得、また考古学的な視点の修得も併せておこなう。特に、グローバルな視点から、大陸、半島、列島間の文化的な影響関係を、実体に即して正しく認識することを目指し、必要に応じて各自の研究内容に反映できるようにする。いわゆる東アジア地域を対象とし、特に物質文化の視点に立って、無文字社会の段階から歴史時代まで、幅広く地域特性を明らかにする。主に考古学的手法に基づいて、具体的な分析や比較検討をおこない、比較文化の視点を豊かにすると共に、各自の研究テーマの設定や掘り下げに活かしていく。学生一人ひとりの研究テーマに基づく中間発表と討議をおこない、文化比較の視点を互いに共有する。	◎		○		

	地域文化特論B	2	選択	大学院博士後期課程の地域文化特論であることから、本講義では比較文化に関連する専門書を輪読・精読しながら、比較文化の視点から地域文化について理解を深め、文化分析の能力を培う。具体的には、国際関係論に関連して、比較文化・地域文化研究に資するものを輪読・精読文献とする。短期間で多数の文献を読み込みながら、受講生はそれぞれの研究関心に応じて、関連する研究発表とタームペーパー・研究論文の提出をし、研究者として独自の視点の確立を目指す。	◎		○		
	ジェンダー特論A	2	選択	本授業の達成目標は、博士論文作成に必要とされるジェンダー研究の専門知識を習得することを通じ、質の高い論文作成に向けた研究を行えるようになることを目指すことである。受講生は、博士論文テーマに関連したジェンダー研究の専門知識について、文献を購読し、より質の高い研究成果を発表できるようにする。研究内容についてのレジュメを作成し、授業において発表し討議を行う。	◎		○		5
	ジェンダー特論B	2	選択	本授業の達成目標は、博士論文作成に必要とされるジェンダー研究の専門知識を習得することを通じ、質の高い論文作成に向けた研究を行えるようになることを目指すことである。受講生は、博士論文テーマに関連したジェンダー研究の専門知識について、文献を購読し、より質の高い研究成果を発表できるようにする。研究内容についてのレジュメを作成し、授業において発表し討議を行う。	◎		○		5
実践研究・研修	上級日本語教授法Ⅰ	2	選択	日本語教育を専攻する者を対象に、日本語教授法の理論的枠組みや実践研究をさらに学び、履修者それぞれの研究の発展に役立たせることを目指す。			○	◎	
	上級日本語教授法Ⅱ	2	選択	日本語教育を専攻する者を対象に、日本語教授法の理論的枠組みや実践研究をさらに学び、履修者それぞれの研究の発展に役立たせることを目指す。			○	◎	

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

#### SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」